

みなしご通信



猪突猛進 大騒ぎのウリ坊

今回の豪雨でがけ崩れにでも遭ったのか、増水した川上から下流に流れてきたイノシシの赤ちゃんを助けた奇特な方がおられました。当然瀕死の状態でしたが、腐りまくつとる日本ではイノシシは有害鳥獣のくくりで行政機関はどこも助けてくれないし診てくれる動物病院もなくどうにもできず犬猫みなしご救援隊・広島本部に相談電話が入りました。そこから私のところに連絡が来てうちの顧問や理事に連絡を回し、犬猫みなしご救援隊としては被災した犬猫なら助けるがウリ坊は助けられないと言うホウはないと即決したのです。



南関東からやってきましたウリ坊君。どっからどう見てもウリ坊です(笑)男の子で名前は《カンジ》と申します。保護したオジサンの名前を頂きました。まだお母さんのオツパイを飲んでいらいの子です。なのでミルクをメインで育てています。もちろん栃木県の環境森林事務所や家畜保健衛生所にはイノシシを保護した旨は伝えていて豚コレラワクチンの接種についても要請しています。私はこくゆくことはちゃんとやるので！

のお姉ちゃんから分けていただいた牛の初乳ミルクを飲ませています。UPAを育てた時と同じでやはり牛の初乳ミルクはいいみたいで満腹にもなるのか子猫ミルクを与えた時よりよく寝てくれます。いろんな果実や野菜を離乳食代わりに与えています。食べると言うよりまだチュウチュウする感じです。鼻にミルクがついてかわいいんです(笑)猪突猛進とはよく言ったものでホンマに私の話なんかぜんぜん聞かないし目の前のミルクも素通りして必死で探しまくつてお皿をひっくり返してそこらじゅうの床をベチャベチャにして自分も滑るし私もベタバタ：みたいなどにかく大騒動です(笑)「ブーブー」鳴きます。怖いことが起きると家が壊れるぐらい《絶叫》します。抱っこは好きで自分からひざに乗ってきますがとにかく猪突で何をするとに落ち着かん(笑)鼻についたミルクを拭き取るのも大騒動(笑)

これまで私はいろんな生き物を育ててきましたがウリ坊が一番大変かも：けど保護した以上は最期までお世話する責任があるし野生動物は伴侶動物と違っていろいろと難しいから今のうちに馴らしておかないと：私は日夜、イノシシの子どもと格闘しています。初日はタオルをかけて静かに寝かせていましたが翌日からはそのタオルもかけなくていいかなになり気づいたら両手足を伸ばして寝るようになりました。もちろん野生種なので少しの物音でも目は覚ましますがね。

新拠点2か所

このたび特定非営利活動法人犬猫みなしご救援隊は埼玉県と北海道にそれぞれ新たに活動拠点を開設いたしました。犬猫みなしご救援隊の後方支援隊の皆さまにご報告させていただきます。

①熊谷拠点Ⅱ埼玉県のセンターから収容動物を引き出すための専用窓口となる

拠点を埼玉県熊谷市に開設致しました。ここでの活動の目的は犯罪に巻き込まれた等の特殊な事情で埼玉県のセンターに収容された子たちの救援活動を行うことです。今まで犬猫みなしご救援隊では犯罪に巻き込まれた犬猫を埼玉県警からの依頼を受け埼玉県のセンターから栃木拠点へ直接連れて帰っていました。埼玉県のセンターがある熊谷市内に一時的に保護できる拠点を設置することで犬猫のストレスを多少なりとも軽減できると思い開設した次第です。

ですから熊谷拠点では一般の方からの引き取り依頼は受け付けませんので悪しからずご了承ください。

②芦別拠点Ⅱ犬猫みなしご救援隊の後方支援隊の皆さまはご存知の事と思いますが2013年に犬猫みなしご救援隊が北海道内で初めてTNRをしたのが芦別市野花南(のかなん)町です。その《すぐ》2カ月後にTNRをした猫の餌やりのジ



【トリモチには小麦粉】貴重な経験から生まれた素晴らしい知恵、と言えば今年からは《トリモチ》が付いた子は小麦粉をまぶすだけ

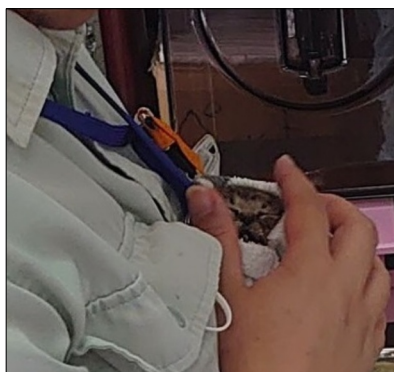
イサンが倒れたため、私はみなしごバスで2度ほど野花南に行き、全頭栃木拠点に連れて帰った（芦別エリアの子たち）という経緯があり私の心の中には《芦別》という地は特別な地となりました。それから7年栃木拠点で活動していた芦別市出身の曾屋が同市へ帰郷する事となり、これを機に北海道全域を対象としたTNRの拠点を芦別市に開設した次第です。

究極の動物愛護

は受け付けませんので悪しからずご了承ください。

さあ、ノンアポ視察だ！と広島県動物愛護センターに勢いよく玄関に入ったらいきなりこの光景：持ち込まれた乳飲み子猫がかなり弱っているみたいで、お姉ちゃんがスポイトでミルクを飲ませていました。正座して：うーん、私の経験上厳しいね：首が細いし舌の色も悪いし：夜までもつかない：『私が引き取ろうか？』と

でそれ以外のことはしない！と決めたんです。特に小さな子猫だと粘着剥がし材のディゾルビットなんかを使うとニオイがきつくて気持ち悪くなっていくし、小麦粉・オリブオイルのやり方だと繰り返し体を洗うから体力を消耗してしまうし：今年からはなるべく静かに粘着を取っていくやり方を使ってみようということになったのです。なんでもそうですが《今以上のやり



お姉ちゃんに聞いてみたら「あんまり元気がないからもう少し抱いてほしいです」この子はそれから30分後に息を引き取りました。が、とつても幸せな最期だったと思います。

方》はまだまだあるし、動物育成の世界に『これしかない！』という天井はないしね。トライあるのみ♪毎年、何十匹もの《トリモチ着猫》が来ますが何が一番ええのか：いまだに答えは出ていません。ただひとつ言えることはあせらないこと。命あつてのことだから、トリモチを取るより小さな子猫はまず体力をつける：これが先決だと私は思うんですよね。

どんな事情があつて母猫と別れ、どんな事情があつてセンターに収容されたのか私には想像もつきませんが、センターの冷たいケージの中でポツンと置かれることもなく、来たまんま玄関ですぐにミルクをもらつて最期の最期までお姉ちゃんの手の中において：ね、じゅうぶん幸せでしょう！

今後の予定

9月10日 北海道芦別 TNR ▼ 11日 芦別プチ みなしご庵 ▼ 13日 秋田猫多頭手術 ※いづれもコロナに十分配慮し、こじんまりとした活動にします

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。

ソフトバンクの「がざし募金」、ジャパングビングで寄付ができます。
(<https://japangiving.jp/supports/1281>) 皆さまからのご支援、よろしくお願いたします。



みなしご通信のバックナンバーは、公式ページ (<http://www.minashigo.jp/newpaper/index.html>) に掲載しております。

NPO法人 (特定非営利活動法人) **犬猫みなしご救援隊**
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711